

一月四日

(野原貢記載分 昭和一〇年)

一、田辺方へ瀬古の報恩講に参指(註)をする也

(野原武雄記載分 昭和二三年)

長男貢の当用日記を見るにありし日を思出して誠に
今度の戦争が全くしやくてある軍ほ(四)つ資本家の
横暴の犠牲となしりかと思へば何とも言ふ事の
出来程残念でならざる也赤紙一枚で命を
的になつかしの我が家をあとに行きしあの日の
事を思ふ時何とも言ふ事の出来ぬ事である